内部留保資金の意義

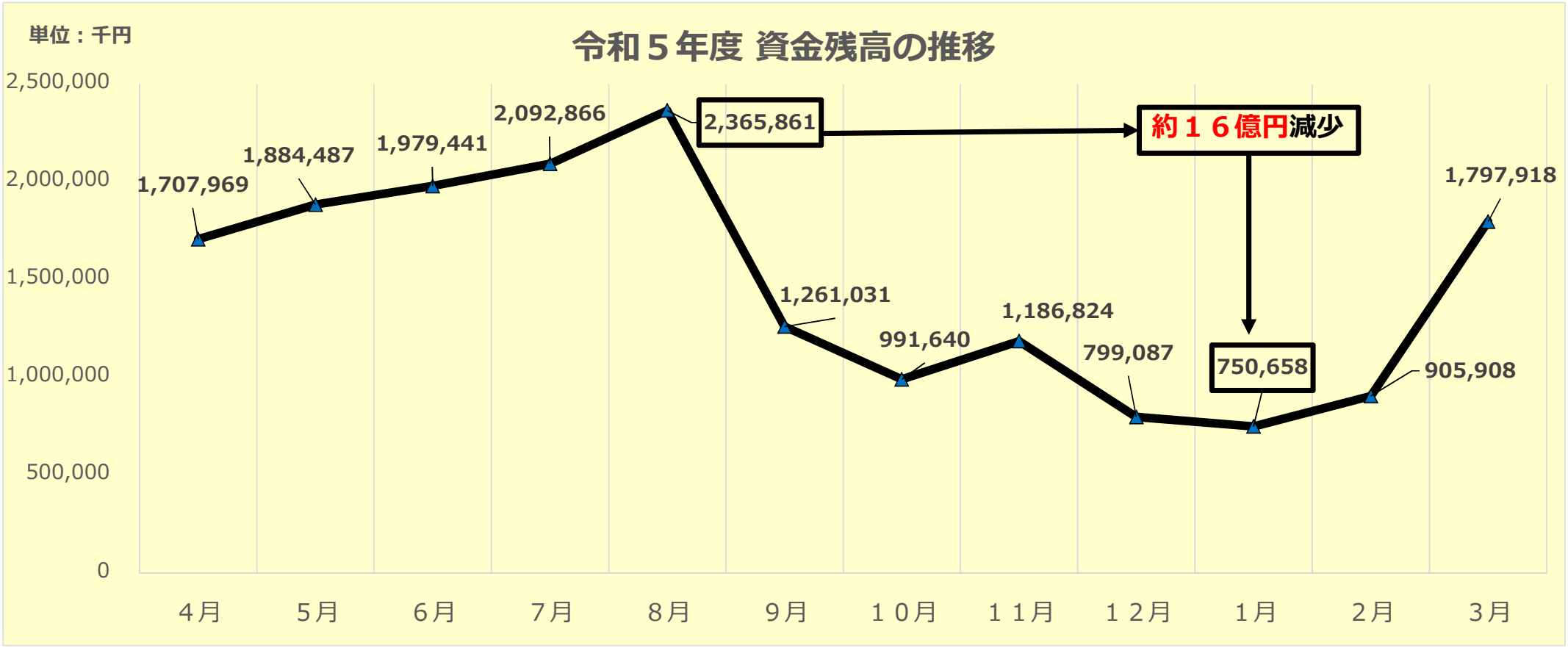
（1）年度途中に運転資金がショートすることを回避するため

資金確保の目安（目標）

①水道事業会計	➡	２５億円
②下水道事業会計	➡	４５億円

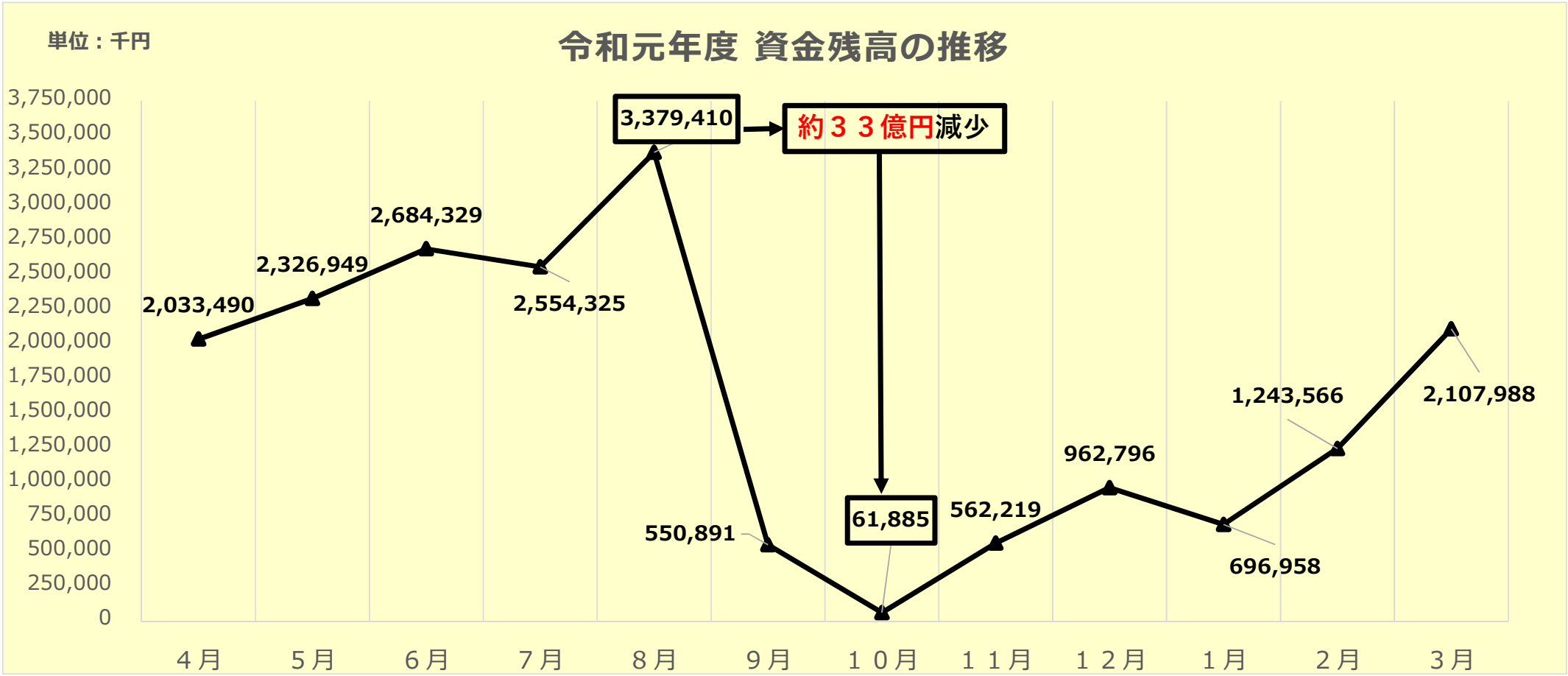
（2）借入金の償還、企業債残高の抑制・減少、将来の建設改良費の財源を確保するため

水道事業会計



①令和５年度の資金残高の推移より、最大**約１６億円**減少（過去５年実績で最大）
②令和５年度の給水収益の２か月分、**約９億円**（全家庭の給水収益が大規模災害により収入を見込めない場合を想定）
⇒**確保すべき資金残高**　①１６億円＋ ②９億円＝「**２５億円**」と見込む。

下水道事業会計



①令和元年度の資金残高の推移より、最大**約３３億円**減少（過去５年実績で最大）
②令和５年度の下水道収益の２か月分、**約１２億円**（全家庭の給水収益が大規模災害により収入を見込めない場合を想定）
⇒**確保すべき資金残高**　①３３億円＋ ②１２億円＝「**４５億円**」と見込む。